

# 筆山

50号記念号

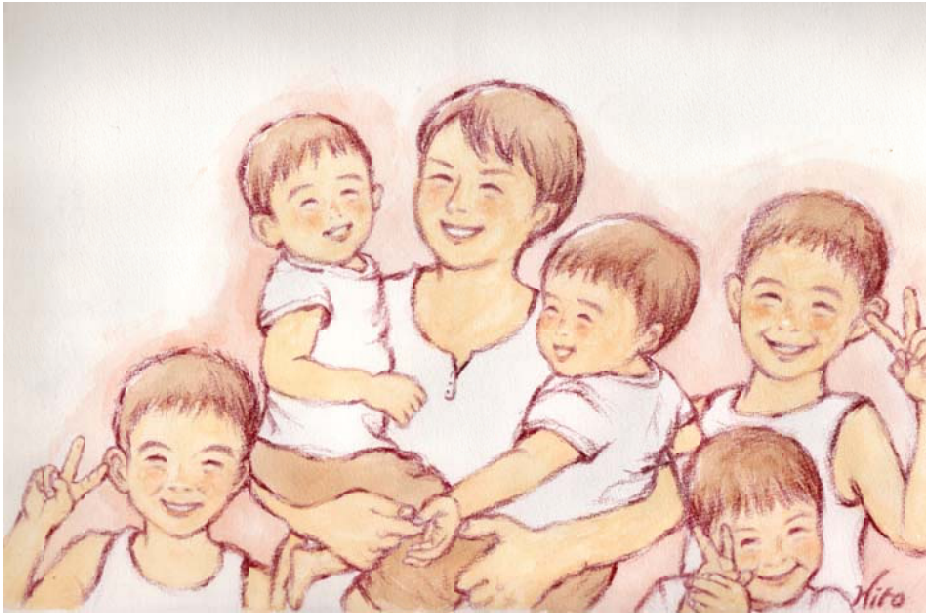
第50号／2011年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

編集室：〒106-0032 港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 編集委員 鶴和千秋 (41回)  
TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail:tsuruwa-office@rsg.gr.jp

関東支部ホームページ：http://www.tosako-kanto.org/



一緒に前を向いて歩こう！ 画 佐々木泰子 (33回)

## 逆境こそ時代の原動力

久松 雄治 (50回生)

銀河ドリームラインで日本の原風景を残すのどかな遠野を経由し、終着駅釜石にたどり着く。鶴住居から大槌町に車が入ると、かつての集落は瓦礫と化し、一面茫漠とした廃墟が広がる。絶望的な思いの中にも、未来に希望を託せるプロジェクトを夢見た。

ある学者は、1860年から50年周期で引き起される「世界の観光革命」を分析し、アジアの観光ビッグバンの到来を10年前に予測した。アジア経済の発展で、いまや現実のものとなりつつあるが、これを一気に加速させる乗物を提案したい。

東南アジア諸国連合の人口は2008年時点で5・7億人を越え、ほとんどは沿岸部に住む。長い滑走路と大量輸送を前提とした大型ジェット機は不向きだ。無数の島々を抱えるアジアには、いつでも気軽に早く移動できる、機敏な水上飛行機こそが相応しい。

先端技術を搭載した機体や制御技術だけでなく、いかに楽しく利用できるかが普及のポイントとなる。観光から水産業、国防まで用途は極めて広い。このハードとソフトを一体的かつ迅速に開発できる国が、今後のアジアを牽引できる。まさに、かつて世界トップクラスの水上飛行機技術を保有した日本の出番である。船舶、鉄道、自動車そして航空機技術を駆使し、海洋研究と一体開発できれば、世界に先駆け次世代ビークルを実現できよう。

被災地の人達だけでなく、希望を失いかけている我々自身のために、夢を叶える水上飛行機開発は「創造に向けた復興プロジェクト」であり、海洋国家として総力を挙げて取り組む課題ではなかるか。開発拠点は、この乗物が求められる三陸をおいてほかにない。

入り組んだリアス式海岸と新たに復興された独創的で美しい街の景観に見とれながら、観光客と上空を周遊する旅が実現されることを期待したい。

〓 新日鉄都市開発 釜石復興チーム 〓

# 平成23年度関東支部総会・大懇親会

平成23年度土佐中学・高等学校同窓会関東支部総会・講演会及び大懇親会は、6月4日(土)、霞ヶ関ビル東海大学校友会館にて行われました。300名近い同窓生が参集し盛大に挙行されました。

母校から山本芳夫新校長先生をはじめ、同窓会本部・各支部から多数のご来賓にお越し頂きました。



記念講演は、宮地電機株式会社取締役社長の宮地貴嗣氏(61回) Ⅱ写真の「土佐の絆」と題する講演でした。土佐高



校の同窓生・クラブ活動等を通じて、また同期の尾崎正直知事との交友を通じて「土佐の絆」について約一時間語って頂きました。同窓生一同熱心に聴講いたしました。

今年1の回生(31、41、51、61、71、81)の同窓諸氏による総会・懇親会の運営がなされました。

大懇親会は、霞ヶ関ビル35階のホールから大東京の夜景を眺めて美味しい料理を頂きながら、新旧同窓生一同、一年ぶりの再開を楽しみました。



→ 乾杯の音頭は山本芳夫校長



→ 司会は61回生と81回生



# 関東支部活動報告

常任幹事 西岡恒憲(41回生)

2月19日に学年幹事会が開催され、今年の活動が開始されました。2頁で既報の通り

6月4日に平成23年度の関東支部総会・大懇親会が霞ヶ関ビルにて行われました。今年支部役員の変更期に当たっておらず、臨時の異動も無く、支部役員は筆山49号で報告したままの顔ぶれで、今年も活動してまいります。

さて、支部会報「筆山」が

今号で記念すべき50号となりました。何か記念記事を書きたいということで、老若編集部員一同、頭を悩ませた結果、創刊号から49号までの主な内容を集めて、記事のタイトルと執筆者を列挙して、新旧の会員に是非見てもらおうということになり、創刊当時から関係していた編集員が中心となり、この作業を進めてまいりました。49冊の筆山バックナンバーをめぐる作業は老眼との戦いで、結構大変でしたが、何とか出来上がりました。文字を1ポイント小さくして文字数を増やしてもびっしり4ページ分ありました。

創刊当時から見ると、関東支部会員も物故者が多くなっております、昔日の感はぬぐえま

せんが、当然ながら最近数年は若い執筆者も増えていきます。創刊号〜49号までの主な内容を列挙しましたが、年配の会員諸氏は、是非特大のルーペ等を用意してご覧下さい。

筒井ホームページ編集長(41回)の骨折りで、筆山バックナンバーは全号、関東支部ホームページの「支部報・筆山」[http://www.tosako-kan.jp/org/]に収録されておりまして、記事内容を読みみたい方はパソコンでは非そちらをご覧ください。



筆山創刊号 (1985年11月)

## 母校だより

学校長 山本芳夫(40回生)  
◇大学入試結果について

本年度卒業の86回生は、高校3年間の着実な努力が実を結び、堂々たる成果を収めてくれました。また捲土重来を期した85回生達も大いに頑張ってくれました。その結果は次表のとおりです。  
なお、本来であれば個別に

各大学の合格者についてもご報告すべきかとも存じますが、紙面の制約もございしますので割愛させていただきます。ご興味のある方は、本校のHPをお開きいただき「進路の部屋」(主要大学の合格者数)とお進みいただくと、「過去10年の主要大学合格者数」[http://www.tosa.ed.jp/passing.htm]とごページが出てまいります。ご高覧賜ればと存じます。

	23年度	22年度
現役合格率	71.7%	70.6%
国立難関10大学	45名 (現32名)	51名 (現31名)
国立医学部 (医学科)	31名 (現15名)	31名 (現15名)
計	76名 (現47名)	82名 (現46名)
国公立現役合格	102名	106名
(注) 難関10大学 (旧帝大・一橋・東京工・神戸)		
本年度 東京大合格者	8名 (現 6名)	
京都大合格者	9名 (現 5名)	

## ◇高校県体の成績について

5月22日から3日間の日程(水泳は6月11日・12日)で

開催され、本校からは18種目に男女316名(県下参加46校中最多選手数)が参加し、よく健闘し次の成績をあげました。

団体優勝は、ハンドボール(男子・4年連続)、バドミントン(男子・2年連続)、登山(3年連続)、サッカー(41年ぶり)、野球(4校優勝)。

惜しくも準優勝に、ハンドボール(女子)、陸上(女子)、卓球(男子)、剣道、自転車。個人優勝は、陸上男子400m、女子100m、400m障害、走り幅跳び、400mリレー、1600mリレー、

剣道、バドミントン・男女ダブルス、自転車男子タイムトライアル、スプリント、女子追い抜き、タイムトライアル。なおインターハイ『北東北総体』は7月28日から青森・岩手・秋田で開催されます。母校の名譽を担っての活躍を大いに期待しております。

◇防災(地震・津波)対策について  
今回の東日本大震災を受け、直ちに『安全管理マニュアル』の見直しを行い、地震及び津波発生時の非常時対応について全教職員で確認をいたしました。

そして、従来は台風を想定

した臨時休校措置は定めておりましたが、新たに地震・津波による臨時休校措置を追加いたしました。

また、地震発生時の学校における生徒への対応として、生徒の在校時間帯別に3つのケースを想定した対応の基本を定めました。今後とも、様々な角度から検討し、必要に応じて適宜見直しをしてまいります。

更に、安全教育の強化を図るとともに、これまで以上にレベルをあげた防災訓練を9月に行う予定でその準備を進めているところであります。

◇新校舎建築募金について  
同窓会の皆様のこれまでのご支援に心から感謝申し上げます。

平成23年3月31日現在、件数で5011件、金額で3億1千765万2431円となりました。目標額4億円に対し、遂行率は79.4パーセント、残額は8千234万7569円となっております。

いよいよ最終締め切り(平成23年度末)まで1年を切りましたが、飽くまでも目標達成を目指してまいります。重ね重ねで恐縮ですが、最後のお力添えを伏してお願ひ申し上げます。

暑さに向かう折柄ご自愛の

程心からお祈り申し上げ、近況報告とさせていただきます。(平成23年5月末)

# 本部だより

副幹事長 矢野公士(62回生)

関東支部の皆さん。こんにちは。同窓会本部の副幹事長を拝命致しております矢野公士(62回生)です。平成23年3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆様方に、心よりお見舞い申し上げます。そして、被災地の皆様の一日も早い復興を願ってやみません。今回は、大地震とそれに伴う大津波、そして、東京電力福島第1原子力発電所における放射線事故と未曾有の大災害となった訳ですが、高知に住んでいる我々にとっても、南海大地震が近い将来にかなりの高い確率で発生すると言われていますので、今回の災害も決して人ごとではありません。もしもの時に備えて、避難場所の確認、節電等に心がけていきたいと思う今日この頃です。なお、今回の大震災により被災された方々に対し、土佐中・高等学校同窓会として、高知新聞文化事業団を介して日本赤十字社に平成23年3月24日付で寄付させていただきます。

さて、同窓会本部の近年の活動、取り組み等をご報告したいと思います。

- 山本芳夫新校長就任、池上武雄校長が学校法人理事長、宮地貴一理事長が顧問にそれぞれ就任

平成23年4月1日を以て、山本芳夫新校長(40回生)が就任され、それに伴い、これまでの間に特に本校校舎再建にご尽力された池上武雄校長が学校法人理事長に、そして宮地貴一理事長が顧問に就任されることとなりました。山本芳夫新校長は、これまで明治安田生命保険相互会社の専務取締役の職に就かれていた方であり、今後、同窓会本部一致団結して母校の発展に寄与する所存です。

- 2011ホームカミングデー開催のおしらせ

本年も例年に引き続きホームカミングデーを開催します。開催日は平成23年8月13日(土)です。現在、藤田理さん(41回生)を委員長に冠した実行委員会が組織されて、ホームカミングデーの企画をしてきております。総会、記念授業、講演会、懇親会など、詳細については、今後、内容が確定次第ご案内の予定ですので、是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。

# 北海道支部だより

幹事 田原哲士(37回生)

関東支部の皆様、3・11の東日本大震災の際には多くの方々が直接、間接に少なからぬ影響を被ったことでしょうか。心からお見舞いを申し上げます。弱小・新参の北海道支部ですが、会員相互の親睦の深さを誇りに、和田健夫支部長(44回生)、先川信一郎幹事長(45回生)、山本隆昭事務局長(53回生)の執行態勢で活動を続けております。今年も支部総会は、秋に開催する予定ですので、ご参加下さい。「天災は忘れた頃にやっ

くる」という警句は、郷土の大先輩寺田寅彦(1878-1935)のもの知られておりますが、彼自身の書いたものの中にはこの言葉は残されていないそうです。彼は地震の予知については懐疑的で、『地震雑感』(1924年)に、「方数十里の地域に起るべき大地震の期日を数年範囲の間に限定して予知しうるだけの科学的根拠が得られるか否かについては私は根本的の疑いを懐いているものである。」「現在でやや可能と思われるのは統計的の意味における予報である。」と書いております。予知に血道を上げるよりも地震発生の可能性を推計し、それに基づいて地震の災害予防に努めることの重要性を説いています。

一方、災害の記憶の失われやすさについては、『津浪と人間』(1933年)の追記として、次のように書いています。「三陸災害地(1896年の明治三陸津浪による)を視察して帰ってきた人の話を聞いた。ある地方では明治二十九年の災害記念碑を建てたが、それが今では二つに折れてたおれたままになってころがっており、碑文などは全く読めないそうである。またある地方では同様な碑を、山腹道路の傍で通行人の最もよく眼につく処に建てておいたが、その後新道が別に出来たために記念碑のある旧道は淋れてしまっているそうである。」

さらに、寅彦の卓見のいま一つが『天災と国防』(1934年)に見いだされます。「しかしここで一つ考えなければならぬことで、しかもいつも忘れられがちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその劇烈の度を増すという事実である。」「というものです。その意味するところは、明治三陸津浪(1896年)と今回の東日本大震災の比較により、よく納得できるでしょう。前者はマグニチュード8・2、8・5、震度3、津浪の最高到達38・2m、死者・行方不明合計22000名に対し、後者はマグニチュード9・0、震度6強、津浪の最高到達38・9m、死者・行方不明合計24000名と報じられております。天災がこのような属性を有するものであるなら、「想定外」とか「未曾有」という言葉を弄しても、災害予防の不十分さや短慮の故に被害を増幅させてしまったことが免責されるものではないことは明白でしょう。

向こう30年間に、震度6弱以上の揺れを伴う東海沖地震が発生する確率は、86%程度とも試算されています。関東大震災の記念塔に刻まれている「不意の地震に不断の用意」という言葉を決して忘れてはならないでしょう。逆説的にいえば、前の天災を忘れないで防災に努めれば次の天災は来ない（被害を軽減できる）ということになりますから。もともと、自分としてはどちらからと言えば、天災を忘れることよりも寺田寅彦が忘れ去られることの方を口惜しく感じております。

### 東海支部だより

幹事 内田順子(35回生)

関東支部のみなさま、東日本大震災のお見舞いを申しあげます。

2011年5月21日の東海支部総会開催にあたり、関東支部の幹事長市川さま、会計監査幸徳さま、会計川上さまには、お忙しいなかご出席をいただきありがとうございます。同窓会支部同士の交流は、母校への愛着を深めます。同窓生や、母校に学ぶ若者たちの活躍をお聞きして、自分へのエールにしています。



3月11日の東日本大震災以来、日本は揺れ続けています。なかでも、福島第一原発のメルトダウンという事態はたいへん深刻ですね。東京電力の圏内ばかりでなく、節電が言われるこのごろです。

中部電力の圏内でも、浜岡原発が5基とも運転停止となりましたので、さまざまの節電提案がされています。基幹産業であるトヨタ自動車グループでは、電力消費を平均化するため、木金を休んで土日休業となりそうです。企業のひとつの決定ですが、大きな影響を社会に及ぼします。私の友人は真っ先に言いました。土日に預かってくれる保育所を探さなければと。じじばば

を頼りたいと思っても、遠くにいるしねと。

グリーンカーテンの提案もあって、市町村でゴーヤや朝顔の苗を配ったりしています。これで夏の冷房用電力を少しでも減らしたい努力です。結構効き目があるらしいですね。ほかの植物でもカーテンになりそうなものが、続々見つかりそうです。

愛知県や名古屋市では、この春の地方選挙で、地域政党が立ち上がり、議員さんも多く誕生しました。減税を謳う政党ですが、この難局に増税やむを得ずという意見もあり、どう立ち向かうか、市民もともに考えどころだと思います。名古屋弁の市長さんがテレビに登場したら、ご注目ください。

放射線除去に役立つとかで、この夏は向日葵畑があちこちに出現するかもしれません。春先は菜の花畑だったり。みんなで知恵を絞ってお花見に出かけ地域を活性化しましょう。

太陽光発電、風力発電、地熱発電ががんばれ。そのことに関わって力を発揮する同窓のかたもおられるでしょう。明治維新を成し遂げた志士たちの気概で、日本再興が成し遂げられることを願っています。

母校の校舎を見学させて頂きました。ぱっちり耐震の備えとお見受けしました。東南海地震も間近と言われるこのごろ、頼もしいかぎりです。

### 関西支部だより

「戦闘車両」

幹事 中田志保美(56回生)

今年公開された映画「阪急電車」をごらんになりましたか。関西圏を走る大手私鉄阪急電車にまつわるストーリーです。高知出身の有川浩さん

原作の同名小説の映画化で、本の方もなかなか面白いです。映画に登場する阪急今津線は、宝塚と西宮北口間を片道十五分で走る短い路線で、映画の中で電車を乗り降りする人たちのエピソードは日常的でどれも温かい視線で描かれています。エピソードの中心は小学生から六十代の五人の女性たちなので、特に女性は共感をおぼえた方も多いのではと思います。

電車と女性といえば、最近増えてきた女性専用車両をご存じでしょうか。関西では地下鉄やJRに、女性の便宜をはかって運行中の列車の一両分に設けられています。以前は朝のラッシュ時と夜間に限つ

での設定だったのが、このごろでは終日女性専用という車両ができてきました。

私は徒歩通勤なので、ふだん電車には乗りませんが、所用でたまに朝早く乗る必要がある時があります。そのときはきまって、女性専用車両を選んで乗っています。

女性専用車両にはもちろん男性は乗っていません。おそらく専業主婦も乗っていません。朝の女性専用車両は、外で働く女性でほぼ占められています。

それとなく観察してみますと、働く女性にもさまざまなタイプがあつて興味深いです。カジュアルな洋服の人は、職場で制服に着替えるのかもしれませんが、スーツに黒い革バッグの人は人と会う仕事なのでしょう。年輩の女性は、いかにも働き慣れたこなれた服装と態度。職場ではベテランの管理職なのかも。肩出し茶髪の人は、ショップ店員？こっそりとファッションチェックをするのも楽しいものです。

あの丈のパンツはことしの流行？この人はなかなかおしゃれさん。新作のブランドバッグを持つている人もいます。高知の女性は働き者、頑張り屋だと言われます。でも職場でも家でも、働く女性には

困難や苦勞がつきものです。楽しいことばかりじゃありません。でも朝の女性専用車両に乗ると私だけじゃない、大変だけどみんな同じなのだという気がしてきます。映画「阪急電車」に登場する強い女性のように。きょうも行かなければ。ドアが開き、いざ戦場へ！

### 広島支部だより

幹事 森澤範康(50回生)

関東支部のみなさま、こんにちは。50回生Oホームの森澤と申します。

東日本の大災害から2ヶ月余り経ちました。亡くなられた方には勿論ですが、被災された方々に何とお声掛けをすればよいのか・・・言葉が出て来ません。小生のお得意先様も、東日本地区には多々いらつしやいますが、未だ連絡が出来ずにいます。

それにしても某電力会社、永田町と足して割るのか、掛けるのか良く解りませんが、ヒドイ対応です。ソモソモ、「想定外」の「想定」は、人のなせる業です。科学的根拠に基づき云々とか、〇〇委員会の承認を受け云々とか、色々理由が述べられています、

『災害発生「廃炉」と云う回路は無かったのでしょうか？巨額の建設コストがあります。電力不足に対する対応があります。従業員さんの事もあるでしょう。一民間企業としては重い判断だったと思いますけれども、最もまずかったのは、今回の「有事」の際にジャッジしたことでは無いでしょうか？(小生にはそう思えて仕方ありません。)

想定内II対応可能  
想定外II対応不能(「廃炉」)

極端な(?)発想で申し訳ありませんが、単純に線引きする事も大事じゃないかと・・・しかも、常々の検討課題として、いつ襲って来るかわからない災害に対して、その規模etc、を想定云々は不可能に近いことです。いや不可能でしょう。また、仮に何かを想定できる知見が得られたとしても、それに対する対応・対策が間に合うとも限りません。つまり、「想定外を想像し、そのイメージを想定する」ことでしょうか。

ともかくにも、被災地の方々に数多くの希望の光が見えることを、広島より祈っています。

話はコロッと変わりますが・・・みなさま、ゴールデンウィークはいかがお過ごしで



2010年の広島支部総会&懇親会

したか？小生は、勝手に計画停電(関東支部 二宮先輩の言葉)して、高知に帰っておりました。が、何も悪い事をしていないのに(お墓参り、親戚への挨拶回りで終了)、風邪をひいてしまい、5月中旬までヒーコラ状態でした。インフルエンザではなかったのですが、体調不良が長引き、

久々に「ヤバイ！」と感じたこの頃です。その瞬間、頭をよぎったのは「走ろう！」、ランニングです。昨年のメタボ健診時に、担当女史にのせられて、高価なシューズに投資をしました。しかし、昨年は暑すぎ！結局シューズは数回の活躍のみ。今年こそは・・・

最後になります、今年の広島支部「総会&懇親会」は、10月29日(土)広島市内で開催予定です。いつものアットホームな雰囲気をお楽しみに、是非、広島へいらつしやいませ。

### 香川支部だより

幹事 上池 裕(50回生)

関東支部の皆さん、こんにちは。また、この度の東日本大震災により被害を受けられた関東支部の皆様に対しましては、心よりお見舞いを申し上げます。

香川県も震災後しばらくは、本州との人の流れがピタッと止まったような状況でしたが、出控えるのは止めようとの国の広報活動等により、ゴールデンウィークの人は前年並み程度には回復したようです。さて、香川と言えば「うど

ん」の話題が定番ですが、今回は若干趣向を変えて、中心商店街の再開発について簡単に紹介させていただきます。

高松市のアーケード街は、総延長2.7kmで日本一の長さを誇り(大都市は地下街が中心)、かつては大変賑わっておりまして。しかし、この十数年の間に、郊外型の大型店舗やショッピングセンターが相次いで開業し、客足がしだいに遠のき、他の地方都市の商店街と同様に衰退の一途をたどっていました。そこで高松市のアーケード街の中核である丸亀町商店街(延長470m)は一大決心をして、商店街の再開発をスタートさせました。簡単に言えば、業種の偏りを是正し、商店街全体をショッピングセンターのように色々な業種の店舗をバランスよく配置した街に作り変えようとするものです。また、中心部の空洞化防止対策として、店舗ビルの上層をマンション等の居住スペースにして居住人口の増加を図っています。

特徴的なところは、大手デパートによる開発ではなく、地元住民が中心となつて第3セクターを立ち上げ、商店街全体をマネージメントする民間主導型市街地再開発で

# 就任のご挨拶

学校長 山本芳夫 (40回生)

関東支部の皆様こんにちは。この度(平成二十三年四月一日)、池上前校長先生(現理事長)の後任として第八代土佐中・高等学校の学校長に就任いたしました山本芳夫です。どうかよろしく申し上げます。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、いつも母校に対し格別のご支援をいただいておりますこと心から感謝申し上げます。

さて、関東支部の会報誌『筆山』が今回の七月号で五十号を迎えられたとのこと、誠にありがとうございます。併せて、会誌作成にこれまで携わってこられた多くの方々のご尽力に対し心からの敬意を表します。

それでは、ご挨拶の思いを込めての私の所感「母校校長に就任して」と「母校だより」を『筆山』にお届けさせていただきます。

母校の校長に就任し早や二ヶ月、住み慣れた東京多摩市を離れ、四十六年振りに故郷高知に戻ってもう三ヶ月が経過しました。

その間、関係先への挨拶訪

問や、同窓会あるいは振興会の支部総会等への出席等を通じていただき、同窓生のみならず、多くの皆さんの土佐校に対する関心と期待の大きさを改めて実感いたしました。また、学校も新学年度がスタートし、私にとってはすべてが新鮮で、戸惑いながらも感慨



深い毎日を送ってまいりました。その中でも四月八日に行なわれた中学の入学式は、今も強い印象として心に残っております。

免震構造の素晴らしい白亜の新校舎、その校舎に囲まれた明るく広く耐震構造を備えた体育館アリーナに集う新入学生二五七名(男子一四六名、女子一一一名)と、多くの保護者の皆様を前にして、初めて校長として入学を許可し式辞を述べました。

壇上から、新入生たちの初々しくもきびきびとした所作、そして、きらきら輝く眼差しを見つめながら、この大切な生徒たちをこれから六年間お預かりし、「報恩感謝」の理念の下、「学問を重んじ、礼節を尊び、スポーツを愛する学校生活を送らしめ、人格の完成と社会に貢献できる人物の育成を期す。」という本校の教育方針に適う人間に磨き上げ、知力と活力を備えた人材として世に送り出さなければと、その責任の重さをひしひしと感じないではいられません。

就任前の去る一月三十日、八十六回生の卒業式の後に行われた記者会見の場で、校長就任にあたっての抱負として三つのことを申し上げました。要約しますと、「諸先輩が築いてこられた土佐校の伝統とブランドを守り抜き、さらに進化させてまいりたい」「生徒一人ひとりの個性と才能を最大限に伸ばせる土壌と環境を一段と整えてまいりたい」「皆が忌憚なく意見を言い合える風土が根付いた組織であり続けたい」ということであ

ります。その後、さる方のご示唆もあり、これに「地域に開かれた学校、地域の人々に愛される学校づくりをさらに目指したい」を加え、これを私の学校運営の基本姿勢と位置づけ、創立百周年に向け、その実を挙げるべく取り組んでまいりたいと思っております。

昨年の秋、思いがけなくもこの度のお話をいただいた時、大変光栄なお話だと有難く思う半面で、今更に未知の領域へ足を踏み出すことへの大きな戸惑いがあった事も事実であります。その上で、私に決意を固めさせたのは、「私を育ててくれた母校ひいては故郷への『ご恩返し』と『最後のご奉公』との思い」であります。そして、お引き受けした以上、多くの皆様のお支えをいただきながら、創立一〇〇周年に向けた『誇らしい土佐校』の更なる発展のために、ベストを竭す覚悟であります。

なにとぞ、同窓会の皆様のご指導ご鞭撻そして更なるご支援のほどよろしく願ひ申し上げます。

(平成二十三年五月 記)

あること、また、所有権と使用権を分離し、地権者が第3セクターと定期借地権契約を結び地代を得る方式であることです。このような再開発は全国初の試みであり、日本国内のみならず韓国等海外からも多数の方が視察に訪れております。また、「ガイアの夜明け」等のテレビ番組でも紹介されました。

まだ工事は途中段階ですが、再開発のシンボルの存在である「ドーム広場」は既に完成して、週末等には各種のイベントが開催され、賑わいを見せています。高松においてなる機会がありましたら、ぜひ見学してみてください。

写真は「ドーム広場」



# ふるさとへの手紙 (十六)

上原 麗 (78回生)

「はよう、お酒もってきてやー」、「ちよっと待ちよって下さい」。高知県のアンテナショップ「まるごと高知」の飲食部門「TOSA DINING おきやく」が私の仕事場です。土佐弁が飛び交う職場で楽しく働いています。もともと高知が大好きで、多くの方に高知の良さを知ってもらいたいと思っていました。接客の勉強をしていたのですが、年々「高知に関わりたいな」「高知に帰ろうかな」という思いが強くなっています。そんな昨年の春、高知県のアンテナショップができることを知りました。高知の良さを売ること、高知の経済を活性化させる。というアンテナショップの目的は、まさしく私が高知県のためにしたいことと同じだったので、なんの迷いもなく、職員募集に応募しました。運よく採用していただき、昨年の6月、オーブン準備から「おきやく」でお世話になっていきます。

アンテナショップで働き始めて、高知県にゆかりのある方が意外と多いことに驚きま

した。東京で働き始めて丸3年になるのですが、その間、ほとんど高知の方にはお会いしませんでしたし、土佐弁なんて話す機会はありませんでした。それが、この「おきやく」では、高知の方にお会いしない日はありませんし、冒頭のとおり土佐弁がメインになっています。高知県出身の

いますが、作業の指示も土佐弁になっている時が多いらしく、実はスタッフの皆によく笑われています。多くのお客様とやりとりする中で、「高知県人の高知への愛情」の大きさを改めて感じました。店構えや、メニュー、味付けなどに関して「もつと〇〇したほうがえい。」「こんな▲▲じゃいかん。」「□□さんはこうやって言いよつたで。」など、

に土佐高校の絆は強いように思います。店には、高知全県下、それぞれの高校別の寄せ書きノートがあるので、実は土佐高校寄せ書きノートへの記入が最も多いのです。「何回生？」から始まり、後輩だとわかると来るたびに「元氣かえ？」と気にかけて下さるのは、とても嬉しいことです。もちろん、「先輩やき粗相したらいかん！」という緊張感も増しますが(笑)。これからも高知のために日々頑張りますので、「おきやく」にお立ち寄りの際は厳しくご指導下さい。よろしくお願います！



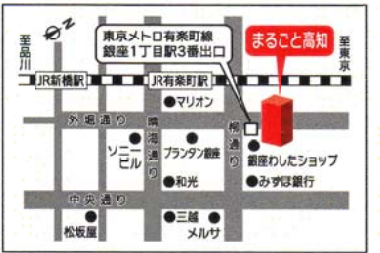
方たちはちよつとした言葉ですが、私が高知県出身だとわかるのでしょね、「おたくは高知県やろ？」とか「高知のどこ？」と気軽に声をかけて下さるので、ついつい盛り上がりてしまいます。出身でない方も「以前に旅行して：」とか「仕事を任んでて：」など高知を軸に話がどんどんひろがります。龍馬ブームの名残もあってか、私の土佐弁は県外の方にも喜んでいただけて

それだけ期待されているということだと考えています。皆さんが自分のことのようにアンテナショップの行く末を心配して、支えて下さっているのがよくわかります。県外出身のスタッフにとって、そんな地元愛はとても不思議なのだそうです。「そんなに熱くなれる地元があるのはい！」と羨ましがられることも。同時に彼女たちは「高校の結束力」にも驚いていました。特

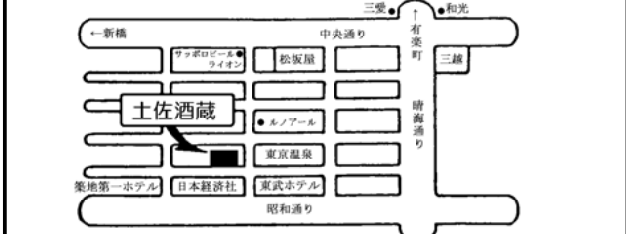
るから出る意見で、



**おきやく**  
TOSA DINING  
一般財団法人  
高知県産外資公社  
プロデューサー&GM  
濱田知佐 (56回生)  
スタッフ  
上原 麗 (78回生)  
アルバイト  
西森 咲 (82回生)  
アルバイト  
高木一歩 (85回生)



www.marugotokochi.com/  
Tel 03-3538-4351 (サンゴ・血林・ヨサコイ)  
〒104-0061 東京都中央区銀座1-3-13



季節のふるさとの味  
**土佐酒蔵**  
銀座7-12-4 友野本社ビルB1  
電3545-3855 銀座第一ホテル通り

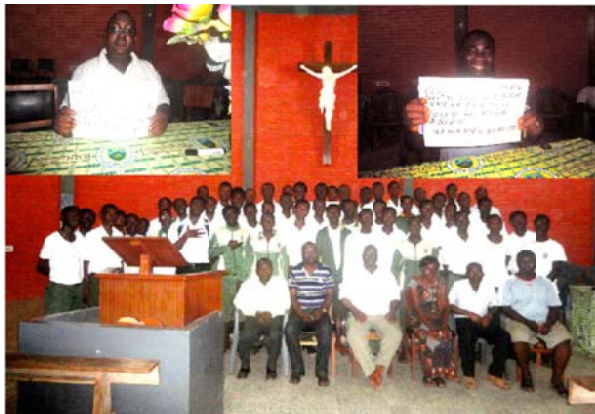


# ガーナ高校生今年は福島へ

公文敏雄 (35回生)

東日本大震災と福島原発事故の影響で中止が危ぶまれた、ガーナ国男女高校生20人の日本研修旅行(東京・福島)の実施が決まりました。

今年恒例となっている東京での交流・原宿スーパードiscoい出場(8月28日)のあと、野口英世の出身地猪苗代町はじめ、会津若松市、福島市など県内各地を6泊7日の予定で訪ねる予定です。宿泊予定地猪苗代の関係者は「災厄に加え、修学旅行の相次ぐキャンセルや避難民に子供たちへのいじめなどで心が沈みがちな福島県民にとって、アフリカからはるばる来てくれる・・・そのことだけで最高の励ましになる」と地域を挙げて歓迎準備に入っています。



祈っています。ガーナ国セント・ピーターズ高校より

一行の訪問に先立ち、お馴染みのセント・ピーターズ高校からの慰問メッセージ「Party For Japan」が動画サイト「You Tube」公開されて、人々を元気づけているほか、アクラからはガーナ産チョコレートもJICA経由で届いて、地元の子供たちに配られております(5月25日付福島民友)。一方、この時期に来日を決めたガーナ高校生はもとより、東京交流の幹事役麻布学園も今回は特別な気持ちで交流に臨んでいます。



表参道で踊る「ロッテ・ガーナよさこい連」(2010年)

めないで！」という熱烈な訴えでした。土佐校の現役・OGも参加する「熱い夏」への応援を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 「ガーナよさこい支援会」

### ◇住所:

千代田区紀尾井町4・13  
マードレ松田ビル4F

### ◇電話:

(03) 3234・3838

### ◇Eメール:

wakasaki@white.pala.or.jp

### ◇ホームページ:

<http://www.ne.jp/asahi/ganade/yosakoi/index.htm>

# 同窓医師と義父

川添正之 (37回生)

私の義父は同窓の先生方に非常にお世話になり、感謝の気持ちを含めて拙文ではあります。その一端を紹介させていただきます。

義父は明治45年生まれ、戦後風邪を引いたことがない程健康で、風邪を引くのは緊張が足りないからだとよく冗談で言っていました。さすがに80代になると、高齢者特有の前立腺肥大になり、私が住んでいる東西線行徳駅近くに開院されたばかりの51回生の岩田真二先生との十数年に及ぶ付き合いが始まりました。出身地の話から同窓ということが分かったようです。

先生が親切に対応して下さいましたので2週間に一度の診察を楽しみに出掛けていました。平成15年の年末の夜、具合が悪くなり医院に電話しましたが、連絡が取れず思い余ってご自宅にお電話しました。奥様(同窓生)も気持ちよく先生に連絡して頂き、事務の打ち上げの食事中にも拘らず医院に戻って来て下さり、通常は救急病院でしか受けられないような手術に近い処置をして頂き、事なきを得ました。その後も、専門外の事も相

談し、先生の指図に従い、先生を命綱と思いい、晩年を穏やかに過ごしていました。往診もお願いし、先生の見える日には髭を剃り身だしなみにも気をつけて待っていました。医師と強い信頼関係で結ばれた義父は、全てを先生にお任せし、幸せだったと思います。岩田先生のお陰で長生きできたと記した日記が遺されています。

最後に数日入院した近くの病院の先生も偶然56回生の泌尿器科の濱口晃一先生でした。同窓と言うことで家族も心強く今晚が危ないと予想された時には見送る覚悟もでき、先生のその言葉通り家族で悔いのない最期を迎える事が出来ました。又、たまたま同期会に奈良から参加された細木靖弘先生にも、義父の不調の時に丁寧なアドバイスを頂く事が出来ました。このように同窓医師にお世話話になり、平成20年95歳の天寿を全うしました。ところで、君は同窓生のために何か役立つ事をしましたか?それを言われると・・・一度紙幅が尽きたよう・・・



# 向陽新聞に見る土佐中高の歩み ③ 大嶋校長・新聞部活動・その他

新聞部の創生期や入試漏洩問題など、前号までのくわしい記述で昭和30年以前の向陽新聞と母校のかかわり、歴史的な資料が明らかにされた。今回はこの欄のタイトルにはそぐわないが、半世紀以上も昔の一時期の追憶随想でおゆるし願いたい。

吉川 順三 (34回生)

## □新聞部VS大嶋校長

同盟休校問題などの後遺症もなく、平穏な日々がもどっていた。そんな昭和31年春、われわれ34回生の仲間は新聞部に入った。そして問題がなくても「記事になる事柄はヤマほどある」と先輩から教えられた。しかし漠然と空回りしたまま、新入部員の一学期が終わろうとしていた。そこに東京で開かれる高校新聞大会への招待状が届いた。向陽新聞が全国の「優秀新聞」に選ばれた実績があったからだ。しかし、活動の中心だった当時の二年生部員は出席を辞退した。「受験勉強のため辞めたい」とのことだった。その相談を受けた三年生部員は実質的な部活からは卒業していたが、部室にはしばしば出入りしていた。そして「有事」追求取材の経験をもとに「記事は足で書け。頭だけで書くな」などと後輩にハツパ

をかける怖い存在だった。

(文中敬称省略)

そこでの結論は「吉川と秦洋一(故人)を派遣する。二人には二学期から部長、編集長をやらせる」だった。拒否できないまま、くちばしの黄色い一年生部員が重荷を背負い込み、四苦八苦することになった。大会から帰ったある日、二人は報告のため校長室に呼ばれた。大会そのものよりも、他校代表との交流会で大きなショックを受けたことを報告した。何がショックだったのか。それは他校の代表が三年生中心で自分たちと発言や会話のレベルが違っていたこと、ほとんどの新聞が無料配布で部費は何倍も多いことだった。とくにグループ別の交流会ではトインビー史論やサルトルの実存主義が話題になったが、土佐高には受験勉強があるだけで、そうした議論にはさっぱりついていけなかった。学

年の差だけでないものを感じて、その悔しい状況などを報告した。

純白のカバーのかかった椅子に瘦身を沈めて聞いていた大嶋校長から「それで何か注文はあるかね」と問われた。ついで「土佐高は受験に閉じ込め過ぎだと思ふ。せめて全校集会のたびに校長先生が『一期校の試験まであと何日』と繰り返すのはやめてほしい」といつてしまった。しばらくの沈黙のあと「新聞部の諸君は『土佐高生の頭をたたいてみれば、サインコサイン、イットザットの音がする』と批判しているようだが、進学第一の方針は変えない。運動部も文化部も活発にやれている」「新聞部費については無料配布にするなら増額を考えよう」と、きっぱり言いわたされた。無料配布と部費の件は部内で議論した。そして結論は「一部10円で売る。部費も増額を求めない」だった。理由は「大多数の生徒が買って読んでくれるような新聞をつくる」「部費の配分は生徒会が決めるもので、校長の一存というのはスジが通らない。費

用の不足は広告でまかなう」というもの。意地っ張りで、意気込みだけは盛んな一年生部員たちの理由づけたった。

それを率直に報告したら大嶋校長は大きくうなずき「やっぱり伝統だなあ。かなり前に諸君の先輩からも同じようなことをいわれた。がんばりたまえ」と励ましてくれた。そして「あの『試験まであと何日』は年に一回だけにするよ」と笑顔で、校長室から送り出された。熱い慈愛にうたれた記憶は忘れられない。□救護室に泊まった さて紙面だが、自分たちの取材力とは別に平穏な時期にはやはり、当たり障りのない平凡なものになる。印象深いのは先生へのぶつけインタビュー「ちよつと失礼」に部員同士がしのぎを削って取り組んだことくらいだ。これは楽しく取材し、大いに失礼なことを書いて、各回とも好評だった。新規の広告開拓にも苦しんだが、難物は制作だった。実物大の紙にレイアウトを何通りも描き、一つに絞り込む。それが完成したら、原稿、写真とともに印刷所に持ち込む。

しかし、そこで終わりとはまならない。当時は活版印刷で印刷所の大まかな工程は職人による活字拾い、写真製版、小組、大組、試刷り、本印刷のスケジュールだった。この工程というのが曲者で、制作費を安く値切っているため、印刷所は通常の業務が終わったあとの夜間を利用したアルバイト残業になっていた。そのため「今日はこれまで。明日は忙しいので次は明後日」といった調子で一週間前後かかるのが当たり前だった。そして部員二、三人が毎回、現場につきあわされた。最後の大組が完成すると、ぬれた紙に刷った大ゲラをチェック、試刷りして持ち帰る。翌日はみんなで再チェックして印刷所にゴーサインを出して完了する。私も秦もかなり遠距離の自転車通学だった。しかも要領が悪いため夜遅くまで部室に滞留することが多かった。つい疲れてゴロ寝しているところを当直の先生にみつかった。「救護室でしばらく休め」と連れて行かれ、朝まで寝たこともあった。印刷所から新聞が届くと、出来映えよりもインクのおいしさを、みんなで喜んだ。10円の新聞はいつも約八割が売れた。それが高いか安いかわ

学校近くで老夫婦が営む「一心」のキツネうどんが、たしか一杯20円の時代だった。一年先輩の「早すぎる引退」で、われわれ34回生は新聞部の活動をたっぷり味わうことができた。その間、多少の出入りはあったが、部員はつねに10人を超えていた。その半数近くを才気あふれる女子たちが占め、彼女たちは積極的に記事を書いたうえ、友人を引き連れてにぎやかに部室に出入りした。女生徒の少ない土佐高では画期的なこと、男子部員は記事よりも雑用に追われていた。



第一回向陽プレスクラブ総会にて。前列中央筆者

それでも私が毎日新聞、秦が朝日新聞、国見昭郎がNHKと三人の部員が、のちにマスコミの職業を選んでしまった。これは新聞部でも異例の現象だった。たぶん高校時代の「居心地のよい新聞部」が影響したものだと思う。

\* \* \*  
 ついでに私のことに触れると経済記者として「安宅産業の崩壊」「三光汽船の倒産」などのスクープ取材にかかわった。「リクルート、ダイエーの傘下」では新聞、通信、放送界で一九九二年度の最優秀スクープとされる新聞協会賞を受けた。

記事は学説や理論ではない。記者の基本はあくまで取材対象に直接ぶつかり真相に迫ることだ。新聞部の先輩たちから教わった、あの「記事は足で書け」をいつも思いおこしていた。

\* \* \*  
 近年、東京の「34回生同窓会」に出席するようになった。かつて受験勉強に取り組んだもの、野球、体操、グライダーや美術、演劇、映画、放送など部活と格闘したものが毎回50人前後集まる。そして「みんな土佐中・高生の自負を持っていった」「厳しいが自由な校風だった」と半世紀以上も昔を懐かしんでいる。

いまの土佐中・高も、それぞれの現役関係者たちが新しい伝統と校風をつくりだしていることだろう。

◇「筆山」編集部  
 50号記念慰労会 IN 浅草  
 筆山50号編集作業も終りに近づいた六月某日、梅雨の季節。ベテラン編集委員のI君の肝煎りで、筆山編集部員が珍しく編集会議以外で集まり、東京食べ歩きをやりました。

場所は江戸情緒を色濃く残した浅草。土曜日の真昼間に集まったのは編集委員十人中八人。女性四人男性四人が雷門前に集合しました。

江戸情緒は残っているが、本物の江戸浅草界隈の遺産はもう数多くない。浅草寺観音堂、五重塔、風神雷神門（雷門）、仁王門、浅草神社（三社様）、浅草寺奥山、駒形堂、吾妻橋、角のどちやう屋（駒形どぜう）、鷲神社、待乳山聖天、川向こう長命寺の桜餅など。風俗文化では、墨堤の桜、三社祭、西の市ぐらいか。

編集後記

明治以後滅びて見なくなつたものは、猿若町の芝居、山谷掘（暗渠化）、日本堤、新吉原大門、吉原の遊女・芸者・翳間、竹屋の渡し、今戸の瓦焼き、山谷八百善、猪牙舟、屋根舟等々がある。

一同、まずは「米久」の牛鍋で遅い昼食をとる。I編集委員によると、牛鍋はすき焼きに似て非なるものなりと言

う。割下を加えて小さな鉄鍋でじっくりと牛肉を煮込む。なるほど、明治の書生は牛肉をこうやって食っていたのかと、懐旧の情に浸りながら、酒も飲んで、米久の閑静な座敷で、土佐人らしく大声で談論風発。一同腹ごしらえをしました。

さて次は、やはりI君のおすすめの甘味処「梅園」。なんと八人中一人の甘党（下戸）を除いて、残り全員が甘辛両刀使い。土佐人は実にこれが多い。注文品は「ぜんざい」が一番多くて、残りは「あんみつ」。梅園のあんみつは非常に甘いのだが、品の良い甘さがする。何人かは更に、大福や葛餅をお土産に買っていた。



夕刻に至ると、やはりI君の昔なじみの居酒屋に繰り込んで、男も女も酒盛りのやり直し。こういうところに来るとロートル編集委員がパワーアップして、大変な騒ぎ。お神酒が過ぎて「まっこと酔うたちや」という人が続出しました。まことに有意義な50号記念慰労会となりました。（T・N）

さすめ、梅園のあんみつは非常に甘いのだが、品の良い甘さがする。何人かは更に、大福や葛餅をお土産に買っていた。

**母校/同窓会本部/各支部**

土佐中学・高等学校 事務局 千頭裕 780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10  
 (TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosa.ed.jp/index.html

土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10  
 (TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosaobog.com/

同窓会北海道支部 事務局長 山本隆昭 001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305  
 (TEL)011-756-2817 (FAX)011-756-2817 (E-mail)yamat@den.hokudai.ac.jp

同窓会東海支部 事務局長 神宮美恵子 468-0075 名古屋市中区天白区御幸山1201 御幸山パ-クマンション B-301  
 (TEL)052-837-5834 (FAX) ナシ (E-mail)jingu-m@crux.ocn.ne.jp (HP)http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/

同窓会関西支部 事務局長 原田和人 530-6001 大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー1F アリコジャパン内  
 (TEL)090-1073-7822 (FAX) ナシ (E-mail)harada73@hotmail.com (HP)http://www.tosa-ko.org/kansai/

同窓会広島支部 事務局長 (新)大谷準一 734-0007広島県広島市南区皆実町6-3-26-902  
 (TEL)082-253-5759 (FAX)082-254-7523 (Email)spat5629@vesta.ocn.ne.jp (HP)http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/

同窓会香川支部 事務局長 武山正人 (担当:大石浩) 760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)  
 (TEL)050-8801-2720 (FAX) ナシ (E-mail)ooishi11737@yonden.co.jp

同窓会関東支部 事務局長 二宮潔 100-8222 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング  
 森・濱田・松本法律事務所弁護士市川直介気付  
 (TEL)03-5223-7719 (FAX)03-5223-7619 (E-mail)naosuke.ichikawa@mhmjapan.com (HP)http://www.tosako-kanto.org/

思い出の先生方③ 父とオンカンと 中山先生次女・山岸雅恵 (30回) / 個室でエアコン付 土佐中・高「向陽寮」が完成 / 土佐高の思い出①一廢材から古釘を取って居られた大嶋校長一 元土佐高教諭 吉田富士子

筆山第7号 (1988.12)

インタビュー⑥ 芝居の道三十年、今でも舞台の前は震えます。劇団昴俳優 北村総一朗さん (29回) / 十一年ぶり 野球部四国大会出場果たす / 見えてきた甲子園 監督・龍尾良雄 / 同窓会も国際化の時代です 28回生8人の美女ヨーロッパに集う 取材:大原由紀・金沢由里 (55回) / 北海道だより 吉野保徳 (31回) / 近藤先輩の喜寿を祝う会盛大に開く / 土佐高の思い出② お酒がまわるに「おぼん、おぼん」 吉田富士子 (元教諭) / 思い出の先生方④ 山岸泰先生 (昭和52年ご逝去) 父と日曜市と俳句 山岸先生長女・櫻谷孝子 (33回) / 今こんなことをしています 5 スイスとソウル・オリンピック 在スイス日本大使館一等書記官 岡田憲治 (48回) / 山野井道子さん (36回) 逝く / 21世紀のための友情計画に参加して 労働者婦人局婦人福祉課 矢野真実 (53回)

筆山第8号 (1989.8) 祝・甲子園出場号

野球部が14年ぶりに夏の甲子園出場決める / 母校再生へ一丸 活性化委が打開策を答申 / インタビュー⑦ 第7回朝日現代クラブ展で奨励賞を受賞した 山本美香さん (59回) / 特別手記 昭和の終った日一昭和天皇の病理検査を担当した故浦野教授夫人が綴る 船橋病院小児科医師 浦野純子 (30回) / 思い出の先生方⑤ 吉本要先生 (昭和60年ご逝去) 悲しきゼロの計算 高橋展子 (長女) / 今こんなことをしています 6 北極にかけける夢一オーロラの下石油を探す 海外石油開発 (株) 弘瀬孝昭 (37回) / 北岡さん (5回) の喜寿祝う 筆山会記念ゴルフ大会開く / 三根校長墓参の会 / 平井康三郎氏一家の演奏会、高知で開く / セントポーリア談義 曾和純一 (16回) / 龍馬の精神に酔う 竹邑類演劇のミュージカルをみて 大原由紀・金沢由里 (55回) / 関西支部の会報名「なんぶう」に / 広島支部設立総会開く / 「根っこ」土佐中一A学級通信 / 32回生、意気強し一京の都に87名大集合!! 山下通子 (32回)

〔9号～14号編集長＝戸田博之 (38回)〕

筆山第9号 (1989.12)

十四年目の甲子園 近藤久寿治 (6回) / 全力観戦記 片山直久 (38回) 中尾成彦 (9回) 高野和夫 (22回) 竹中恵美子 (32回) 戸田博之 (38回) 関雅夫 (39回) 浦部孔明 (51回) 馬語葉子 (59回) / 全役員を再任一懇親会 / 食中毒一学年幹事会 / みんなで飲めばこわくない一木会誕生一 / 集う同胞意気高し 曾和純一 (16回) 戸田博之 (38回) 佐々木泰子 (33回) 壺坂・青島 (28回) 藤宗俊一 (42回) / 食中毒顛末記 事務局・岩村康生 (41回)



14年ぶり夏の甲子園に出場。入場行進する土佐高ナイン

／思い出の先生方⑥ 初代校長 三根円次郎先生 三根徳一 (長男 ディック・ミネ) / 土佐高の思い出③ 土佐の龍馬とおとめさんへ 吉田富士子 (元教諭)

筆山第10号 (1990.7)

「明るい」という事 進藤貞和 (3回) / 国会議員5氏にきました 堀昌雄 (10回) 谷川寛三 (14回) 西岡瑠璃子 (28回) 山本有二 (45回) 中谷元 (51回) / 「たまるか、5人も!一先生囲む一木会一」 金沢由里 (55回) / 応援しています 竹中恵美子 (32回) 高村禎二 (53回) / 支部名簿の作成は来年に延期、コンピュータ導入へ / おめでどう母校70周年 / 北陽に快勝、楽しみな「夏」一記念試合観戦記一 浅井伴泰 (30回) / 今こんなことをしています 7 若者は国際社会を目指す 母校の伝統生かすスuis公文学園公

創刊号から49号までの主な内容をまとめました。総会の模様とか本部・支部便りなどは割愛しました。

筆山のバックナンバーは関東支部HP「支部報・筆山」に全て収録されています。ぜひご閲読下さい。

関東支部HP:<http://www.tosako-kanto.org/>

〔創刊号～8号編集長＝小松勢津子 (35回)〕

筆山創刊号 (1985.11)

『筆山』発刊にあたって一 母校発展を願って 支部長 北岡龍海 (5回) / 同窓会は橋 幹事長 浅井伴泰 (30回) / ノンフィクション作家の思い出一 86 新年総会講演に先立って一 塩田潮 (40回) / 20人にかけてみました… 100字アンケート 安岡義則 (8回) 中尾成彦 (9回) 寺川博典 (12回) 葛目尚宏 (13回) 島内淳 (16回) 岡崎昌生 (23回) 堀田正一郎 (27回) 川村愿 (28回) 原弘道 (30回) 堀内松久 (32回) 久保内端郎 (33回) 安土正篤 (34回) 黒川雄爾 (37回) 出来尚史 (39回) 伊東千恵 (41回) 小松孝明 (44回) 岡部美智 (47回) 二宮潔 (49回) 中谷元 (51回) 川沢琢也 (59回) / 「今こんなことをやっています 障害を負った人々と共に」 長沢道子 (35回) / カマス逝く一 92歳! / 曾我部校長の胸像完成す / D・ミネ氏の喜寿を祝う会

筆山第2号 (1986.7)

「今こんなことをやっています 2 6月23日と24日にした事」 竹邑類 (35回) / 支部会則が発効 二千円の年会費納入にご協力を / インタビュー 前文部省事務次官 宮地貫一氏 (21回) / 随想 母校をみんなでもり立てよう 浅井伴泰 (30回) / 果体 5年ぶり優勝の庭球 バドミントンは4年連続 / しんぶん切りぬき帖 (高知新聞より転載) 県外の私立進学中へ58人

筆山第3号 (1986.12)

INTERVIEW② 殿様三菱を变身させた土佐のやんちゃぼうず 三菱電機名誉会長 進藤貞和氏 (3回) / 『群青のとき一我らカットビ青春記一』出版 土佐高61回生Hホーム / 座談会 志願者調査対策委員会委員長 龍尾良雄先生 (27回) を囲んで / 関東支部草創のころ 近藤久寿治 (6回) / 戦争の時代へ 曾和純一 (16回) / 同窓会の再出発 島内淳 (16回) / まんじゅう会の由来 伴正一 (17回)

筆山第4号 (1987.7)

INTERVIEW③ 仲人は宮尾登美子さん “片地の秀才”に憧れ土佐中へ 作家 倉橋由美子さん (29回) / 話題の周辺 遠ざかった甲子園 / 土佐高野球部 光と影 / 野球部創部四十周年 / アメリカ留学レポート “百聞は一見に…を実感する日々” 土佐高英語科教諭 イースタンリノイ大学留学中 井上聖香 / 思い出の先生がた① 広田直吉先生 (昭和49年ご逝去) 髪はカラスの濡羽色 広田先生長女 広田伊佐子 (30回) / 今こんなことをやっています 3 タイ国インドシナ難民眼鏡贈呈プロジェクト 富士メガネ 窪田友忠 (38回)

筆山第5号 (1987.12)

関東支部長に就任して 放送大学学園理事長 宮地貫一 (21回) / 浅井幹事長など再任 / INTERVIEW④ 2分でメロディ浮かんだ「平城山」 東京音楽学校は独学で合格 作曲家 平井康三郎氏 (5回) / 都市の社会変容に関心 『コンピュータ人類の研究』で第18回大宅ノンフィクション賞受賞 神戸市大原語大教授 野田正彰氏 (37回) / ユキ&ユリの珍道中 大原由紀 (55回) 金澤由里 (55回) / 思い出の先生がた② 片岡敏男先生 (昭和48年ご逝去) 父のこ 片岡先生長女 田村真佐子 (39回) / 株価大暴落から一か月 恐慌なんか怖くない 日本経済新聞 鍋島高明 (30回)

筆山第6号 (1988.7)

インタビュー⑤ 東大投手として17勝の記録を保持 コンクリート工学の権威として本四架橋にも関与 東大工学部教授 岡村甫氏 (32回) / 高知からの報告 いま母校は攻めの姿勢で前進を 高知新聞社会部副部長 宮内巖 (39回) / 新年総会に初めて出席して 武市楯夫 (18回) 伊野部彦慧 (35回) 福富廉 (49回) 中内真奈 (52回) 赤崎達志 (55回) 平山英樹 (59回) 本越和代 (61回) 永野美華 (61回) / 今こんなことをしています 4 高校で学んだことに助けられ文学関係の本を編集 筑摩書房編集部 岩川哲司 (44回) /

筆山第16号 (1993.7)

下谷泉 (20回) / 今こんなことをしています11 コックピット  
トドアの向こう側 日本航空ジャンボ機機長 吉本豊 (44回)  
/ 17年ぶりのセンバツ 北岡龍海 (5回) 中尾成彦 (9回)  
曾和純一 (16回) 西村憲 (28回) 西岡瑠璃子 (28回)  
藤谷敏郎 (30回) 川内一 (30回) 浅井伴泰 (30回) 原  
弘道 (30回) 町田武仁 (33回) 川添正之 (37回) 三宅  
ヨシロウ (38回) 大和田洋子 (39回) 小松三男 (41回)  
牧内操 (42回) 藤宗俊一 (42回) 岡林広文 (47回) 山  
崎文雄 (49回) 中谷元 (51回) 山岡正人 (57回) 石川  
淑 (67回) 市川哲司 (67回) / NHK紅白歌合戦・セン  
バツ野球中継で土佐高OB大活躍 NHK人事部 笠井重治  
(32回) / ゴリラがいて…私がいる 二宮潔 (49回) / 足  
の裏から② 九時半! ? 戸田博之 (38回)

筆山第17号 (1993.12)

三根校長のめざしたもの 中城正堯 (30回) / (引退の辞)  
土佐高校野球部前監督 籠尾良雄 / 籠尾良雄先生の監督ご勇  
退によせて 土佐高校野球部監督 楠目博之 (51回) / 『風』  
とともに 二百二人目の部員 共同通信社運動部 万代隆 / 全力  
疾走三十年 籠尾先生をたたえる会 / 同学社から事務局が移り  
ます。 / 事務局長を拝命しました 六本木司法書士合同事務所  
鶴和千秋 (41回) / 第44回県中学野球選手権大会 24  
年ぶりの頂点 / ご子弟を愛する母校へ 坂本隆 (47回) / 足  
の裏から③ カーニバルと六尺権 川崎製鉄ブラジル支店長 戸  
田博之 (38回) / 思い出の先生方⑩ 小松博行先生 (75才)  
父・小松博行について 長男・小松美裕 (48回) / 今こん  
なことをしています12 『らん』と『いごっそう』日本一  
の切花輸入商社 (株)クラシック社長 西尾義彦 (33回)



全力疾走三十年。籠尾良雄先生、野球部監督をご勇退

筆山第18号 (1994.7)

キメラに会えないか 曾和純一 (16回) / 『同期生』 気心  
の通い合う友と 吉澤信一 (16回) 平均寿命を越えよう  
久保内貞行 (20回) クラス誌発行 中城・浅井 (30回)  
お酒は少なめでも 島崎睦美 (31回) 五十を越しても  
川添正之 (37回) 一時間早めに終了 窪田秀忠 (38回)  
同期会をしました 三宅ヨシノリ (41回) ステキなおじ  
様バック 黒田真理子 (44回) 初めての同期会 勝木田泰子  
(57回) / 柔道部全国大会出場 / 足の裏から④ 馬にけられ  
て 川崎製鉄ブラジル支店長 戸田博之 (38回) / 今こんな  
ことをしています13 やってて良かった一水泳 やってれば  
良かった一英会話 財団法人日本水泳連盟理事 濱崎洗一 (3  
2回) / 思い出の先生方⑪ 古谷俊夫先生 (68才) 父・古  
谷俊夫について 長男・古谷博 (49回) / 近藤夫人、初甲さ  
ん亡くなる / 弔辞 宮地貴一 (21回) / 近藤夫人を偲んで  
岡崎昌生 (23回) / バラの木会 中村哲 (51回) / 公演・  
展覧会 / 物理学のスズメ 吉野保徳 (31回)

筆山第19号 (1994.12)

ある青春 伴正一 (17回) / 『高知へのこだわり』 35年  
ぶり 安孫子雅行 (26回) 鏡川 増田美洲子 (29回) な  
めたらあかん 竹中恵美子 (32回) 高知が一番 橋田正幸  
(37回) 高知に帰って行く処食べるもの 鶴和千秋 (41  
回) 父母の味 笠和子 (48回) 土佐の岩村々! 関護  
(59回) / 籠尾先生の近況 / 思い出の先生方⑫ 浜口未喜子  
先生 (63才) 母・浜口未喜子 長女 阿部知暁 (51回) /  
土佐中・高同窓会関東支部 同窓会々館の夢 幹事長 溝淵真清  
(32回) / 足の裏から⑤ 女中 戸田博之 (38回) / 外反  
母趾を手術して 佐々木素子 (33回) / 宮地さんおめでとう  
熱気! 100曲の競演 リオ文体連、カラオケ大会 / 風のた  
より 近況 橋田正幸 (37回) 大和田洋子 (39回) 岩村康  
生 (41回) 永森裕子 (44回) 杉本みどり (50回)

文教育研究会 取締役教育主幹 岩谷清水 (27回) / 思い出  
の先生方⑬ 竹村一水先生 (昭和56年ご逝去) 三男・竹村  
道夫 (39回) / 甚田先生歳時記① 風花 田内瑞徳先生 /  
風のたより 近況 吉田香 (28回) 酒井芳美 (28回) 公文  
敏雄 (35回) 鶴和千秋 (41回) / 首相のチャーター 伊野  
部彦慧 (35回)

筆山第11号 (1990.12)

母校創立七十周年に当って 宮地貴一 (21回) / 土佐中・高  
時代の思い出 創立期一俊英集いて 三木常緑 (5回) 戦時  
期一飢餓の中で 下谷泉 (20回) 復興期一さまよえる子羊  
たち 久武慶蔵 (30回) 梶田廣人 (30回) 小松勢津子  
(35回) 発展期一良き師、良き友 笠幸介 (45回) / 副  
幹事長に壺坂さん (28回) 学年幹事会で選出 / エアメール  
シカゴからの手紙 日本貨物航空 武田倫生 (33回) / 思い出  
の先生方⑭ 大嶋光次先生 (昭和33年ご逝去) 知られざ  
ることなど 次男・大嶋邁 (土佐塾高校校長) / 今こんなこと  
をしています8 『夫婦小舎制』一非行少年、少女たちとの生  
活一 埼玉学園寮長 吉岡一孝 (41回) / 甚田先生歳時記②  
昭和30年5月11日 田内瑞徳先生 / 風のたより 近況 竹村  
照雄 (20回) 門脇稔 (25回) 福本栄子 (28回) 島崎睦  
美 (31回) 北村文典 (39回) 山本博也 (42回) 佐々木  
正清 (55回)

筆山第12号 (1991.7)

松浦勲先生を送る会に出席させて頂いて 壺阪艶子 (28回)  
/ 新校長に森田幸雄先生 ごあいさつ / 甚田先生歳時記③ 弥  
エ門のボラ 田内瑞徳先生 / 北村文典氏 (39回) の『櫻月記』  
を覗く 竹前征矢子 (39回) / 追悼ディック・ミネ / 直さん  
からの手紙 / 思い出の先生方⑮ 熊野義雄先生 (昭和46年ご  
逝去) 教育者としての父 長女・和食康子 (39回) / おめ  
でとう 藤沢主将 (61回)、東大野球部悲願の200勝 近藤  
久寿治 (6回) 曾和純一 (16回) 福田知子 (29回) 田所  
鴻一 (30回) 浅井伴泰 (30回) 前田哲 (31回) 久保内  
端郎 (33回) 公文敏雄 (35回) 大石和男 (40回) 荻野  
友康 (44回) 近藤将視 (55回) / 更なる精進を望む 籠尾  
良雄 / 今こんなことをしています9 女子大生とともに十一年  
国分寺女子ハイソ館長 島内淳 (16回) / 風のたより 近況  
大野進 (30回) 鍋島高明 (30回) 久保内端郎 (33回)  
花岡都子 (38回) 高立さゆり (39回) 森崎初男 (41回)

筆山第13号 (1992.1)

東京物語 溝淵真清 (32回) / 年会費3千円に 新幹事長は  
溝淵氏 新役員 / 戦いすんで…… 浅井伴泰 (30回) / 母校  
野球部残念観戦記「あつ、あ〜甲子園が、甲子園が……」 鶴  
和千秋 (41回) / うらかたの記 名簿を支える男達 大石和  
男 (40回) / 世相の不愉快 伊野部彦慧 (35回) / 今こ  
んなことをしています10 ゴリラを訪ねて三千里 画家 (一  
陽会会員) 阿部知暁 (51回) / 新しい日本の歌・発表演奏  
会「爽快にうたう」 岩谷清水 (27回) / 甚田先生歳時記④  
ある思い出 田内瑞徳先生 / 谷川氏の大臣就任祝賀会開く / 進  
藤さんの銅像建立を祝う会 / 興奮と余韻 溝淵真清 (32回)

筆山第14号 (1992.7)

一同窓会員の願い 北岡龍海 (5回) / 会長になって一年 同  
窓会会長 町田守正 (16回) / 町田先生の思い出 吉野保徳  
(31回) / 今こんなことをしています10 スクーブ映像で  
…『ソ連崩壊』を記録 日本テレビ報道局チーフプロデューサー  
南勝次郎 (38回) / カンボジア眼鏡視察 富士メガネ 窪田  
秀忠 (38回) / 独占インタビュー「ますます盛ん!」北岡  
龍海氏 (5回・筆山会会長) / 思い出の先生方⑯ 片岡満先生  
(昭和58年ご逝去) おかあちゃん先生 長女・近藤靖子  
(34回) / 筆山編集局スタッフ紹介 編集者求む! できれば  
若い女性 / 甚田先生歳時記⑤ 大きな『ひづみ』 田内瑞徳  
先生 / 剣道部ガンバレ 福富廉 (49回) / 豹変の怪 伊野部彦  
慧 (35回)

【15号~24号編集長=藤宗俊一(42回)】

筆山第15号 (1992.12)

開眼 山本高敏 (25回) / 速報 さあ甲子園だ! 四国大会  
みごと優勝 春の選抜出場が濃厚に / 西峯先生を囲んで 横川  
壽彦 (52回) / 『里見勝蔵先生』の事 渡辺靖夫 (34回)  
/ 岩谷清水氏逝去 / 弔辞 近藤久寿治 (6回) 「中野区野  
村 岩谷清水先輩の思い出」 横山禎夫 (30回) 「岩谷先輩  
をしのぶ」 中城正堯 (30回) / 政治屋の墮落 伊野部彦慧  
(35回) / 全国高校軟式野球大会 土佐高が優勝! 昭和3  
1年第一回大会「兄の優勝」 三宅ヨシロウ (38回) 「頭と  
顔でこい!」 市原隆 (34回) 「無欲の勝利」 上田宗一郎  
(34回) / 足の裏から① 情けは人の為ならず 戸田博之  
(38回) / 名簿だより 大石和男 (40回)

## 筆山第27号 (1999.12)

思い出すままに 安芸勉 (8回) / 今こんなことをしています  
 ⑩ ソムリエのバックボーンは高知の「おきやく」 阿部川知  
 佐 (56回) まだ、吹いています 岩井千尋 (42回) / 思  
 い出の先生方16 中澤節子先生 長女・後藤藤子 (36回)  
 / 上高地の雨 森健 (23回) / 11泣き虫 弱虫 怒り虫 せ  
 つない運動靴 立仙浩一 (10回) / 37回生同期会 幸徳正  
 夫 (37回) / 土佐高校サッカー部全国大会へ

## 筆山第28号 (2000.7)

哲学中年体験の薦め 溝渕真清 (32回) / 総会裏話 藤原和  
 幸 (40回) / 第78回全国サッカー選手権大会観戦記 織田  
 祐輔 (45回) / 今こんなことをしています⑫ 介護のプロ  
 を目指して 篠原由紀子 (57回) / 幹事長就任のご挨拶 市  
 川直介 (53回) / 戸田博之君のこと 市原真仁 (38回) /  
 戸田さん追悼 藤原俊一 (42回) / 泣き虫 弱虫 怒り虫 ス  
 シとソラ豆 立仙浩一 (10回) / 母校創立80周年記念招待  
 野球観戦記 清谷知郎 (52回) / 40回生同期会 岡部直明  
 (40回) / ハチキン会 山本絢子 (28回) 島村真智子  
 (33回) 松田葉月 (58回) 葛根由香 (70回)



土佐高サッカー部初の全国高校サッカー選手権出場へ

## 筆山第29号 (2000.12)

傘寿一佐竹真一 (41回) / 母校八十周年記念行事執り行わ  
 れる / 第4回ハイクの会 雨の立山登山 西内弘 (38回) /  
 思い出の先生方17 山本直四郎先生 父・山本直一郎・長男  
 ・山本誠一 (43回) / 泣き虫 弱虫 怒り虫 礼節は取り戻  
 せるかー立仙浩一 (10回) / 今こんなこととしています21  
 帰国子女のため文庫活動 永森裕子 (44回) / 第8回はち  
 きん会 / 詩集と、行き倒れのみみずと、私と 土居泰夫 (32  
 回) / ドキドキの総会出席 山口由紀 (55回) / 野球部惜敗  
 ・悲鳴メール集

## 筆山第30号 (2001.7)

中谷元君の大臣就任を祝う 鍋島高明 (30回) / 総会幹事を  
 終えて 上野典子 (51回) / 中谷元君の防衛庁長官就任を祝  
 う / 24回生関東クラス会 山中和正 (24回) / 高知工科大  
 で第1期学位授与式 / 高校1年生研修旅行 東京を中心にコ  
 ース別研修 / 今こんなこととしています21 サバ=西アフリカ  
 の人達を支援する会 野澤真次 (25回) / 泣き虫 弱虫 怒  
 り虫 ある日の勧誘電話 立仙浩一 (10回) / 百周年に向け  
 て 佐竹真一 (41回) / 筆山三十号記念 歴代編集長思い出  
 を語る

## 筆山第31号 (2001.12)

わたしのトラウマ 山中和正 (24回) / 思い出の先生方18  
 富田俊夫先生 夫・富田俊夫 富田清榮 / 立仙浩一さん (10  
 回生) を偲ぶ 鶴和千秋 (41回) / 第35回全国高校野球大  
 会「松山商高対土佐高校決勝戦記念第2回交流会」 永野元玄  
 (29回) / 土佐中文化行事「クララ チェコ 稲葉 ヒアノ  
 コンサート」 佐々木泰子 (33回) / 溝渕峯元土佐高野球  
 部監督逝去 / 秦郷次郎氏 (31回) レジオン・ドヌール勲章  
 受章 荻野泰浩 (31回) / 第5回ハイクの会 万寿・草津温  
 泉の旅 (草津白根山) 金澤由里 (55回)

## 筆山第32号 (2002.7)

母校土佐中・高校の輝かしい未来に幸あれ 川村愿 (28回生)  
 / 一本会 / 三根先生のお墓へ / 一年生校長発進 学校長・池上  
 武雄 (28回) / 今こんなこととしています22 F1と無線と  
 岡上功 (40回) / 私のお気に入り モバイルパソコン Jorna  
 da 710 岩村康生 (41回) / スマートないごさう 思い出  
 一そは麗し 山中和正 (24回) / 向陽新聞 復活を目指し  
 東京で新聞部OB会を開催!! / 進藤大先輩を偲んで / 土佐  
 高OG会 愛称・はちきん会

## 筆山第20号 (1995.8)

五十の大台にのって 小松勢津子 (35回) / 私にとっての同  
 窓会 川村愿 (28回) / 足の裏から⑥ 修好百年 川崎製鉄  
 ラジ支店長 戸田博之 (38回) / 『一億二千万分の一』の役  
 割』の終章 (財) 日本法律家協会報『窓』46号掲載 竹村  
 照雄 (20回) / 思い出の先生方⑩ 平林泰人先生 (65才)  
 負けず嫌いの兄 弟・平林芳治 (30回) / 今こんなこと  
 をしています14 『阿佐ヶ谷文士村』にて けやき法律事務所  
 弁護士 笹岡峰夫 (43回) / 震災後百五十日目の芦屋から  
 関西支部 竹原暢子 (28回) / 「京阪神地域に起こる地震」  
 という講演 尾池和夫 (34回) / クラス誌『一つの流れ』/  
 個展『子供達の世界』 / 連載『ゴリラのひとりごと』 / 講演  
 ・展覧会『酒香童女』は本も好き! ICBA会長 永森裕  
 子さん (44回)

## 筆山第21号 (1996.4)

空の新兵 泉谷良彦 (29回) / 大学入学おめでとうございま  
 す! 先輩からのメッセージ 竹中恵美子 (32回) 溝渕真清  
 (32回) 窪田秀忠 (38回) 塩田潮 (40回) 天造豊彦  
 (52回) 島津大輔 (69回) 谷口尚子 (69回) 小松正利  
 (70回) 戸梶涼 (70回) 中条由賀 (70回) / 足の裏か  
 ら⑦ 救の戸田 川崎製鉄ラジ支店長 戸田博之 (38回)  
 / 東京の『土佐酒場』の案内 はらひろみち (30回) / 籠  
 尾良雄先生『全力疾走三十年』の出版を祝う会 / 土佐から世  
 界へ 公文先生の遺産 中城正克 (30回) / 思い出の先生方  
 ⑫ 町田守正先生 (73才) 父・町田守正 長男・町田友作  
 (53回) / 今こんなこととしています15 日の出町から  
 絵本作家 田島征三 (34回) / 書評『泣き虫弱虫怒り虫』  
 立仙浩一 (10回) 著

## 筆山第22号 (1997.1)

ハイデルベルクを訪ねて 鍋島高明 (30回) / 関東支部OB  
 より在校生並びにご父兄への老婆心 軽々誘いにのる勿れ / 籠  
 尾良雄先生 野球王国の復活をめざして / 選歴記念誌くろしお  
 発刊 川村愿 (28回) / クラス誌『うきぐも』十六号の軌跡  
 浅井伴泰 (30回) / 今こんなこととしています⑩ インター  
 ネットの41回生同窓会のページ 株式会社マイクロネット  
 代表取締役 山崎郁太郎 (41回) / 美女の会、千代女の会、  
 乙女姉の会 設立にまつわる秘話 野町啓 (70回) ...そして  
 ハチキン会 金澤由里 (55回) / 展覧会・催物 / 泣き虫弱  
 虫怒り虫 外相整えば一大原健士郎さんのことー 立仙浩一  
 (10回) / 風のたより 近況 安岡毅 (27回)

## 筆山第23号 (1997.7)

同窓会総会に参加して 伊与田弓子 (69回) / 籠尾先生にまた  
 大役 / 総会講演要旨 石油と発展するアジア情勢 泉谷良彦  
 (29回) / 提言「卒業生の英知・若い血を土佐校の経営に  
 注入しよう」 市川直介 (53回) / 書評『アジア魔除け曼  
 荼羅』 中城正克 (30回) 著 / 泣き虫弱虫怒り虫 リンデン  
 バウムと咬いた 立仙浩一 (10回) / “カエル” 逝く 情報  
 刻々 41回ネットより

## 筆山第24号 (1998.1)

元母校美術教諭高崎元尚先生 (16回) の個展が... / 土佐中  
 ・高同窓会長に就任して 岡村甫 (32回・東京大学工学部長)  
 / 将棋なかまへのお誘い / 三十七・三十八回 富士山登頂記  
 富士山はしーよいか? 市原真仁 (38回) / 思い出すままに  
 岡崎昌生 (23回) / 今こんなこととしています⑩ 名所江  
 戸百景散歩「駒形堂」 西岡恒憲 (41回) / 泣き虫弱虫怒り  
 虫 携帯電話の功罪 立仙浩一 (10回) / 4141ネット一  
 周年に寄せて

〔25号～ 編集長=西岡恒憲 (41回) 〕

## 筆山第25号 (1998.12)

恐ろしき天然、美しき天然 西岡恒憲 (41回) / 名簿つれづ  
 れ 大石和男 (40回) / 37・38回生 土佐高尾瀬ハイク  
 の会 憧れの尾瀬は山だった 中村裕子 (37回) / 甲子園決  
 勝戦同窓会 浅井伴泰 (30回) / 泣き虫 弱虫 怒り虫 一枚  
 の写真 立仙浩一 (10回) / 今こんなこととしています⑩  
 ジャカルタ暴動記 平井立 (41回) / 土佐高OG会 (愛称)  
 はちきん会

## 筆山第26号 (1999.7)

向陽の空 竹村照雄 (20回) / 思い出の先生方15 西森茂  
 夫先生 長女・西森さと (57回) / ちゃんちゃんこ同窓会  
 久保内純郎 (33回) / 町田守正・田村孝章両氏叙勲祝賀会  
 曾和純一 (16回) / 42回生関東地区同窓会開催 堀見淳二  
 (42回) / 夢への挑戦 武市智行氏 (スクエア代表取締役)  
 / 泣き虫 弱虫 怒り虫 松岡の聴いた「一枚の写真」 立仙浩  
 一 (10回) / ハチキン会 川村愿 (28回) / 伊野部愛子  
 (34回) 永森裕子 (44回) 谷口瑞枝 (67)

## 筆山第41号 (2006.12)

「よさこい」が繋ぐ縁 角陽一郎 (72回) / ガーナ高校生たちと「原宿スーパーよさこい」に参加して 鎌田圭子 (47回) / 今こんなこととしています 26 レクサス一産発のプレミアムグローバルブランド構築に向けて 川淵辰夫 (63回) / 須藤博志君を新制作展に訪ねて 水野孝 (41回) / ふるさとへの手紙 (八) 東京大学大学院二年 高村麻裕子 (76回) / 第10回ハイクの会 八方尾根の旅 弘瀬孝友 (38回) / 岡崎のおんちゃんの思い出話 (二) エチオピアという国 岡崎昌生 (23回) / 新婚さんおめでとう / いか焼きと美女 < 06夏 大阪 二つの出会い > 岩村康生 (41回)

## 筆山第42号 (2007.7)

一つのお願ひ 関東支部長泉谷良彦 (29回) / 第三の建学に参加できる喜び 溝淵真清 (32回) / 岡崎のおんちゃんの思い出話 (三) レバノン 岡崎昌生 (23回) / 筆山会ゴルフコンペのこと / ふるさとへの手紙 (九) 田所真奈 (77回)

## 筆山第43号 (2007.12)

ルネッサンス発祥の地より 永森誠一 (42回) / 土佐中・高等学校 宮地貫一 新理事長にインタビュー 市川直介 (53回) / 学生・若手社会人同窓会 小松岳志 (70回) / ふるさとへの手紙 (十) 加藤丈典 (76回) / 第11回ハイクの会・奥飛騨路ハイクで俳句 前田勝洋 (38回) / 岡崎のおんちゃんの思い出話 (四) 子供のころのこと 岡崎昌生 (23回) / 東京ドームで《同窓会》 鶴和千秋 (41回) / ガーナ高校生たちと「2007原宿スーパーよさこい」に参加

## 筆山第44号 (2008.7)

表彰状 野波博泰 (26回) / 筆山編集会議余話 吉井雄二 (49回) / 速報! 原宿スーパーよさこい / 岡崎のおんちゃんの思い出話 (五) 土佐中学校へ入学のころ 岡崎昌生 (23回) / 今こんなこととしています 27 高知工科大学は、世界一、人が育つ大学です 筒井康賢 (41回) / ふるさとへの手紙 (十一) 北添哲也 (78回) / 第13回はちきん会 / 幹事たちの伴侶①卓球マンは物真似がお好き 中村誠三さんの巻

## 筆山第45号 (2008.12)

土佐を思う 森郁夫 (41回) / 学生・若手社会人交流会 in 2008 / 牧野植物園のこと 片山直久 (38回) / 第11回ハイクの会 群馬の山々へ 馬田宏 (37回) / 岡崎のおんちゃんの思い出話 (六) 土佐中学校卒業のころ 岡崎昌生 (23回) / 第七回ガーナよさこい祭り & ガーナ高校生日本研修旅行 / 今こんなこととしています 28 自分にはピアノがあると考えることは本当に幸せだと感じる ピアニスト・作曲家 田中智子 (70回) / ふるさとへの手紙 (十二) 古谷文平 (78回)

## 筆山第46号 (2009.7)

友達を連れて高知に遊びに帰ろう 前田憲一 (37回) / 今夏は高知で交流 ガーナ高校生研修旅行 公文敏雄 (35回)

## 筆山第47号 (2009.12)

東大と野球 片山直久 (38回) / 学生・若手社会人交流会 in 2009 / 岡崎さんのこと 野波博泰 (26回) / 岡崎さんを偲ぶ会ご報告 / 「二九の会」近況報告 / 第13回ハイクの会 土佐ハイク、月山も踏破す 中島宏 (38回) / 第六回ガーナ / 日本高校生交流のご報告 / ふるさとへの手紙 (十三) 宮村円絵 (76回)

## 筆山第48号 (2010.7)

司法とマスコミ 堀内稔久 (32回) / 就任のご挨拶 会計監事 川上正衛 (58回) / ふるさとへの手紙 (十四) 吉川博貴 (80回) / 向陽新聞に見る土佐中高の歩み (1) 一 学校再建と民主化への熱気伝える一 中城正堯 (30回) / 第14回はちきん会 / 今年も土佐高で受け入れ ガーナ高校生研修旅行 / 弘瀬君を偲ぶ 柳原正寛 (37回) / 一江戸の祭り一 神田祭 西岡恒憲 (41回)

## 筆山第49号 (2010.12)

出会い直す 笠井賢一 (42回) / 学生・若手社会人交流会 in 2010 長谷至誠 (76回) / 第十四回 ハイクの会 ビールと米沢牛と吾妻山 岩橋真理 (58回) / 向陽新聞に見る土佐中高の歩み (2) 一 中学入試問題漏洩事件と同盟休校一 岡林敏真 (32回) / 新「向陽プレスクラブ」設立 藤宗俊一 (42回) / 第七回ガーナ・日本高校生交流のご報告 公文敏雄 (35回) / ふるさとへの手紙 (十五) 奥田純子 (76回) / 宇田耕一先生の大恩 岡林幹雄 (27回) / 喜寿を迎えて居合道五段の昇段審査に合格 弁護士 秋田清夫 (27回)

## 筆山第33号 (2002.12)

土佐高魂の発露 堀見淳二 (42回) / 関東支部若手の会開催さる 坂本佳昭 (74回)、小松岳志 (70回) / 10人に聞きました 72回・千頭寛子、72回・尾崎礼奈、74回・山本修平、74回・坂本佳昭、75回・池田真由美、75回・原由紀子、75回・松下倫子、76回・山崎寛子、76回・野崎緑、76回・楠瀬陽子 / 「ユニセフアート・ダイアリー」に佐々木泰子さん (33回) の絵が登場 / 弘瀬さんを偲んで 二宮潔 (49回) / 第6回ハイクの会 那須と日光戦場ヶ原を歩く 沢村武彰 (38回) / ガーナ便り ガーナ大使 浅井和子 (35回) / 思い出の先生方 (19) 高崎元尚先生 父・高崎元尚 高崎元宏 (51回) / スマートないごっそうーいごっそう 考一 山中和正 (24回)

## 筆山第34号 (2003.7)

かつての私たちへ 竹村佳奈 (67回) / アクラの空に鳴子が響く / フラフがなびく ガーナよさこい祭り報告 / 今こんなことしてあります 23 インターネット古書店「五台山書房」店主 鍋島高明さん (30回) を訪ねて / 籠尾良雄先生の思い 市川直介 (53回) / 北岡龍海大先輩 (5回) を悼む / ふるさとへの手紙 (一) 山崎寛子 (76回) / 3/6 関東同窓会 幹事 下司芳嗣 (36回) / スマートないごっそう 道祖神への誘い 山中和正 (24回) / イタリア城廻りの旅 西内一 (30回) / 向陽プレスクラブ懇親会 岡林幹雄 (27回)

## 筆山第35号 (2003.12)

ラテルネの灯を点しつづけて 曾和純一 (16回) / 第2回若手の会 中島隆介 (73回) / ガーナ高校生一行受け入れ報告 / 近藤久寿治さん逝く / 井上健郎氏 (38回) 作陶展 / ゴリラ・ゴリラ・全部ゴリラ展を訪ねて / 剣友大西正一郎君との47年振りの再会 秋田清夫 (27回) / ふるさとへの手紙 (二) 松下倫子 (75回) / 第7回ハイクの会 木曾駒ヶ岳 しらび平と昼神温泉の旅 幸徳正夫 (37回)

## 筆山第36号 (2004.7)

性幻想論や博覧『狂気』の論客たち 中城正堯 (30回) / 支部長挨拶 泉谷良彦 (29回) / 本年度東大合格者7名が東大総長室を訪問 / スマートないごっそう 男は優しくなければ生きていけない 山中和正 (24回) / ふるさとへの手紙 (三) 趙詣 (77回)

## 筆山第37号 (2004.12)

坂の上の新しき雲 公文俊平 (28回) / 第3回若手の会 趙詣 (77回) / 第8回ハイクの会 北横岳の旅 濱田継夫 (37回) / 第3回ガーナでよさこいの旅 秋田清夫 (27回) / 土佐中高同窓会北海道支部設立準備会開催さる 島村昭範 (49回) / ふるさとへの手紙 (四) 一慶應義塾大学三年 合田瑛典 (77回) / スマートないごっそう 山中和正 (24回) / 書評「心の中の羅針盤」 谷口瑞枝 (67回) / 23回生同期会開催 岡崎昌生 (23回) / 大恩ある友 秋田清夫 (27回) / ウルルン滞在記 吉田真一郎 (66回)

## 筆山第38号 (2005.7)

安易なる文武両道を排す 野波博泰 (26回) / 福知山線脱線事故を取材して 宮崎晶子 (67回) / 理事長就任のご挨拶 土佐高理事長・川崎幾三郎 / ふるさとへの手紙 (五) 宮村悠資 (74回) / スマートないごっそう 年賀状 山中和正 (24回)

## 筆山第39号 (2005.12)

心から感謝 佐々木泰子 (33回) / ふるさとへの手紙 (六) 早稲田大学三年 小松香葉 (78回) / 今こんなことしてあります 24 ああ、土佐高 フジムラ・ド・ブラジル (株) 坂本雅 (44回) / ガーナよさこい & 原宿スーパーよさこい 金澤由里 (55回) / 第9回ハイクの会 会津磐梯山の旅 高田谷洋 (38回) / わが師の恩 堀昭吉 (21回) / 第12回はちきん会 / 競馬記者の憂鬱、もしくは華麗なる生活 明神理浩 (62回)

## 筆山第40号 (2006.7)

忘年の交わり 野村京生 (29回) / 事務局長就任のご挨拶 二宮潔 (49回) / 今こんなことしてあります 25 弁理士 上岡将人 (70回) / ふるさとへの手紙 (七) 早稲田大学一年 森本洋平 (81回) / 岡崎のおんちゃんの思い出話 岡崎昌生 (23回) 故倉橋由美子氏 (29回) に明治大学が特別功労賞贈る / スマートないごっそう 幸福論 山中和正 (24回) / 30回生関東同窓会実施 田所鴻一 (30回)

# ★出版リーダー★

英傑未来 (54回生) (ペンネーム) 大森望

公文俊平 (28回生)

「情報社会のいま」 N T T出版 2011.05

「情報社会学概論」 N T T出版 2011.01

高内英祐 (30回生)

「セピア色の吉野川」 高知新聞社 2010.03

田島征三 (34回生)

「やぎのしずかのたいへんなたいへんないちにち」 偕成社 2011.04

「生命の記憶」 現代企画室 2010.12

田島征彦 (34回生)

「そうへえ ふしぎなりゆうべつじょう」 童心社 2011.06

尾池和夫 (34回生)

「日本のジオパーク」 ナカニシヤ出版 2011.03

野田正彰 (37回生)

「現代日本の気分」 みすず書房 2011.07

塩田潮 (40回生)

「まるわかり政治語事典―目からうろこの精選600語」 平凡社 2011.06

西村繁野 (40回生)

「だがしかし」 文溪堂 2010.12

黒鉄ヒロシ (41回生)

「千思万考」 幻冬舎 2011.02

森崎初男 (41回生)

「現代経済学の数学基礎(下)」 シーエビー出版 2010.12

杉山雄一 (41回生)

「マイクロドーズからPET分子イメージングへの新展開」 メディカル ドゥ 2010.10

高山宏 (42回生)

「パラドクシア・エビデミカールネサンスにおけるパラドクスの伝統」 白水社 2011.06

宮岡等 (49回生)

「脳と心のプライマリケア8 依存」 シナジー 2011.03

坂東真砂子 (51回生)

「狂」 幻冬舎 2011.02  
「天狗小僧魔境異聞」 文藝春秋 2011.03  
「魔女」 角川書店 2011.01  
門脇護 (53回生) (ペンネーム) 門田隆博  
「甲子園の奇跡」 講談社 2011.04  
「蒼海に消ゆ」 集英社 2011.04  
「栄光なき天才たち2010」 集英社 2011.01

たか 検証! 今の政治で「この国」は救えるか

「フロンティア」 49(17) [2011.5]

「菅民主党政権は続くのか 失敗に終わった国民の壮大な「初期実験」 調和型リーダーを待つのか「救国大連立」か」 ニューリーダー 24(4) (通号 282) [2011.4]

「FOCUS政治 今とは「救国」 最優先、民主主義が再生の底力」 週刊東洋経済 (6318) [2011.4]

「鼎談 舛添要一VS菅野芳浩VS塩田潮 菅民主党政権につけるクスリ 負けて変身したオバマの爪の垢わずかな「評価」も完全に埋没」 ニューリーダー 24(3) (通号 281) [2011.3]

「首相がその座を降りるとき(最終回) 破られた選挙態勢と路線継続 新たな対立軸生んだ鳩山辞任 民意を背負う政治が座を守る」 ニューリーダー 24(3) (通号 281) [2011.3]

「首相がその座を降りるとき(第9回) 孤独に耐えた超楽観主義者 解散時を鈍らせた瘦せ我慢 歴史的敗北で麻生太郎辞任」 ニューリーダー 24(2) (通号 280) [2011.2]

「FOCUS政治 「強硬」か「柔軟」か、長期戦略を欠く公明党」 週刊東洋経済 (6312) [2011.2]

宮岡等 (49回生)

「従来の向精神薬に 残された意義(第1土曜特集 向精神薬―最新の動向―(重要疾患・薬物療法トピックス))」 医学のあゆみ 236(10) (通号 2841) [2011.3]

「睡眠とストレスコーピング―大学生の健康調査から」 医学と生物学 155(1) (通号 997) [2011.1]

門脇護 (53回生) (ペンネーム) 門田隆博

「「公議」と「杓子定規」 菅政権の「人災」(総力大特集 東北関東大震災)―(東北関東大震災 私はいっくそ考えた)」 W11. (77) [2011.5]

「元週刊誌記者座談会 週刊誌に未来はあるか(総力大特集 メディア戦争の勝者と敗者)」 W11. (76) [2011.4]

「根本博外伝―『この命、義に捧ぐ』に掛けなかつた真実」 Voice (通号 398) [2011.2]

「九十歳の兵士たち(最終回) 大和」 文芸春秋 88(15) [2010.12]

英傑未来 (54回生) (ペンネーム) 大森望

「「ディック感覚」が世界を覆う フィリップ・K・ディック原作「アシジャストメント」公開記念 12000字対談 大森望×中原昌也」 キネマ旬報 (1583) [2011.5]

「大森望の新SF観光局(第21回)電子書籍端末興亡中」 SdPマガジン 52(5) (通号 662) [2011.5]

「私が選んだ「ベスト5」―Book Selection (読む、見る、聴く―GWお薦めガイド)― 週刊新潮 56(13) (通号 2791) [2011.5]

「大森望の新SF観光局(第20回)日本のSF英訳事情」 SdPマガジン 52(4) (通号 661) [2011.4]

「大森望の新SF観光局(第19回)二〇一〇年をなんとかへんかえる」 SdPマガジン 52(3) (通号 660) [2011.3]

「大森望の新SF観光局(第18回)ゼロ年代海外SF50選」 SdPマガジン 52(2) (通号 659) [2011.2]

「アジジャストメント」 987円 早川書房 2011.04  
「不思議の扉」 540円 角川書店 2011.03  
「原色の想像力」 1155円 東京創元社 2010.12  
「NOVA 3」 998円 河出書房新社 2010.12  
「輝く断片」 893円 河出書房新社 2010.10  
「NOVA 4」 698円 河出書房新社 2011.05  
森岡浩 (55回生)  
「名字でわかる 日本人の履歴書」 880円 講談社 2011.03  
決定版 石川県の名字 1470円 北國新聞 2010.11

## 「」からは雑誌に掲載されています

鍋島高明 (30回生)

「特集読み物 伝説の相場師 鈴木久五郎―初めて「成金」と呼ばれた男の栄光と挫折(歴史読本2011年2月号特集 日露戦争―世界を駆けた明治日本)― 歴史読本 86(1) (通号 859) [2011.1]

田島征三 (34回生)

「描きおろし絵本 田島征三『わたしのイガグリモンスター』」(この本読んで!) 二(1) (通号 88) [2011.春]

尾池和夫 (34回生)

「1200年ぶりの活動期に突入! 日本列島の大地震、大噴火は今後数十年ごとく(特集 恐怖のシミュレーション)」 新潮55 30(5) (通号 349) [2011.5]

大橋一章 (36回生)

「飛鳥時代の伽藍配置の源流(二〇一〇年九月十一日開催「文化財の解析と保存」の新しいアプローチ」報告」 奈良美術研究 (11) [2011.2]

野田正彰 (37回生)

「「社会的悲哀」を大切にす救援を。(「東日本大震災」の衝撃)」 潮 (通号 627) [2011.5]

「三陸の被災地を見た『危機において信頼されないタイ』とは 大ピンチに強いリーダー、残念リーダー(評価の72%)は「報・連・相」で決まる」 プレジデント 49(14) [2011.5]

「野田正彰「災害救援の思想」 「がんばろう」は「頑張らないうお前はダメ」のメッセージになる」 サンデー毎日 90(18) (通号 5044) [2011.4]

「自殺が組み込まれた社会を変えてようではないか(特集 自殺問題を考える)」 都市問題 102(2) [2011.2]

「壊れゆく学校と奪われる教師の良心(特集 人間としての誇りを手放さない)」 教育 61(1) (通号 780) [2011.1]

「カルトから大學生を守るために」 大学時報 59(334) (通号 349) [2010.9]

塩田潮 (40回生)

「FOCUS政治 党の復興と再生に向け「ニュー自民党」を描け」 週刊東洋経済 (6324) [2011.5]

「「東日本」「阪神」「関東」 大震災後、政府・官邸はどう動くか」